

02.子どもとのコミュニケーションに関すること



50代

子どもを理解して、問題を共に解決してくれる先生の
時間の保障

先生の目が行き届き、子どもの「困った」を見つけ寄
り添える環境



50代



50代

生徒・児童が自由に先生と話せる、言える環境

子どもが「先生あのね・・・」といえる学校→たくさ
んの目が必要



50代



50代

子どもとの関わりを大切に一人ひとりの成長を見守れ
る学校

子どもと先生が日々の出来事を（又は悩み事を）語り合える関係とゆとり



50代



50代

「わからない」を言える学校の時間

苦手な学習に対して子どもは分かったと喜んでいるか



70代



70代

失敗したことを本人以外の方がフォローするか。

「先生の授業面白い、もう1回やって!」とリクエストあるか



70代



70代

最後までできなかった子どもへの対応はどうしているか

授業と関係のない時間帯で子どもと接することは？



70代



40代

子どもの笑顔…先生となんでも話せる環境を大事にしたい。先生と生徒の距離が近いと、何かあったときに相談が出来る。

小人数の学校では勉強に置いて行かれる事はなく、行きとどいた教育が受けられる。



30代



40代

学びも大切だが、このような集まりが苦手な人が多い。
小さいときから、道徳の授業等使って、グループワークを取り入れて増やすべき。

いじめや不登校のない学校作りのためにどうしたら良いのか？



40代



40代

スクールカウンセラーを配置し、中心的かつ専門的な立場から動ける人材活用。

SNSやメールではない、言葉でのつながりを大切にしたい。



70代



60代

子どもの話を聞くことのできる学校（子どもたちが何を感じ、考え、やりたいのか）

色々な立場のものが、子どもについて気軽に話し合える場があればいいと思う。（雑談の中から学べるような場所）



60代



70代

いつも一人ひとりの子どもの気持ちを考え、こどもの目線、立ち場で考えられる大人でいたい。